奥州市立胆沢中学校　校報　No. 186　　令和6年12月20日 文責 校長 菅原 文江

えぐね

「えぐね」は、日本三大散居村の地、胆沢扇状地の屋敷の北西側に木を森のように植えて、冬の季節風から屋敷を守る防風林です。快適な住環境を形づくり、日本の原風景を代表する景観を生み出しています。本校が胆沢の地や人々にとってなくてはならない「えぐね」のような存在であり続けたいと願い、校報のタイトルにしています。<学校HP　https://isawachu.edumap.jp>

２学期のあゆみ　～85日の登校日を終えて

１２月２０日（金）の終業式をもって、１年で最も長い２学期が終わりました。新人大会、胆沢プライド文化祭などの行事や、嬉しいこと、心配なこと、様々なことがありました。

1年職場見学、2年盛岡研修、3年修学旅行




教育実習生との出会い




胆沢プライド文化祭








みちのくダム湖サミットで焼石太鼓を披露→



3年体育
合気道の授業↓



２学期は、２学年ＰＴＡの、のべ１４０名に上る見守り隊をはじめ、スクールサポーター、民生児童委員の方々、奥州市教育委員会や県南教育事務所の方々など、多くの方に訪問いただき、授業や休み時間の様子をご覧いただきました。

お陰様で、１学期よりもずっと穏やかな２学期末を迎えることができました。

皆様のご協力に、心より感謝申し上げます。




２学期の成長　～生徒アンケートの回答から

２学期末に「第２回まなびフェストアンケート」を実施しています。今回は、生徒用のアンケートにこのような質問を加えました。

質問：1学期と比べて自分が変わったのは、どのようなところですか。小さな変化でもよいので、記入してください。

２年生キャリア教育講演会の講師（パラレルクロス 須藤 達 様）がおっしゃっていたように、**「学校は夢を叶えるところ」「夢を叶える準備をするところ」**です。そして、夢がまだない人は**「夢を見つけるところ」**です。学校がそのような場になっていたと感じられる３年生の回答をいくつか紹介します。冬休み明け、全校生徒一人一人が成長を感じられる３学期になるよう願っています。

〇感情的になることがなくなった。分からないことは先生に聞いてそれ以外は自分でできるようになった。
〇挑戦する意欲、誰かに頼ること、あいさつ、コミュニケーションの広がり
〇身長、度胸、意欲（何に対しても）
〇何事にも自分から挑戦するようになった。
〇最後の中学校生活を仲良く楽しむようになった。
〇本を毎日借りて読むようになった
〇受験に向けて工夫して勉強時間を確保するようになったことや自分の苦手から逃げないようになったことです。
〇友達に素の自分を見せられるようになった。
〇高校について考えた
〇クラスの人と話すようになった
〇相手を敬う言葉使いができるようになった。
〇自分の考えを貫けるようになったこと
〇勉強がわかるようになったこと、挨拶をするようになったこと
〇前よりも自分の意見をはっきりと述べることができるようになった。
〇周りに目を配れるようになった。
〇物事を深く考えられるようになった
〇自分の意見を前よりも言えるようになった。
〇失敗を恐れず行動すること。
〇授業中の学び合いが増えた
〇新しいことにも少しでもやってみるようになった
〇今自分が続けている好きなことをこれからも続けていこうと思うようになった

＜保護者の皆様へ＞　まなびフェストアンケートについて（御礼）

12 月 19 日（木）を期限として実施しました「第２回まなびフェストアンケート」へのご協力ありがとうございました。いただいたご意見は、冬休み中に全職員で目を通し、今後に活かしていく所存です。また、冬休み明けの校報では、アンケートの集計結果を詳しく取り上げる予定です。

あらためまして、２学期、学校の教育活動へのご協力、誠にありがとうございました。